

キューバ出張

縁あって、キューバとの医学交流の機会があり、現地に3泊4日で滞在してきた。最初、お話をいただいたとき、キューバに行く機会などめったにないだろうという思いもあり、さほど深く考えずにお受けしたが、よくよく調べていくと、訪問すること自体、容易ではない。2014年に米国と歴史的な国交回復をはたしたが、トランプ政権下で関係性が悪化し、現在は米国の制裁を受けている状況だという。よって米国を経由したルートは米国内の審査や手続きが煩雑で使えず、事実上、メキシコシティ経由しか選択肢がない。しかも接続が極めて悪く、往路はメキシコシティに午後に着するのにはバナ便は翌朝までないという（つまり同市に1泊せざるをえないということ）。

キューバに着いてみると、先方は非常に熱心で、国内トップのエルマノス・アメイヘイラス病院を含む3つの病院を回って合計9つの講演を行ったが、会場には多数の外科医が集まってくれた。ハバナ市内のみならず、遠方からわざわざ来てくれた方も少なくなかったという。聴衆とのやりとりの多くがスペイン語だったのは閉口したが（通訳が手配されていた）、たくさんの鋭い質問をいただいた。日本の外科医がキューバで講演する例が過去になかったこともあるだろうが、何を話すのか、みなさん興味津々だったように感じた。旧市街の大きな公園の目立つ場所に支倉常長像が設置されていたのが象徴的で、全体的に親日的であった。

ただ、残念だったのは「3病院回るんだから、どこか一つでも良いから手術見学させてほしい」と事前に強くお願いしていたのに実現しなかった点である。手術件数がさほど多くないゆえ適当な症例選択が難しいと判断したのか、手術場環境は外部に見せにくいと考えたのか、いろいろ想像するが、その理由は定かではない。一つ現地に赴いてわかったのは、経済力がかなり厳しいという点である。車は半世紀前のボロボロガソリン車、幹線道路も穴だらけでスピードを出せる状況ではない。予定になかった場所への訪問を提案すると、「ガソリンが足りない、新たに配給されれば行ける」という返答だったりして、社会主義経済ということを改めて実感させられた。

訪問前、駐日キューバ大使や関係者と何度か面談したが、判を押したように自国の医療システムの自慢をする。要はかかりつけ医が充実し、専門的対応が必要な場合はその上に2段階の受診体制が構築され、他国への医療チームの派遣など実績も積み重ねているということである。その優れたシステムを実際に見てみるのも訪問の目的の一つであった。ただ、現地に着いても保健省副大臣含め、担当者も同じこととお題目のように繰り返す。なんだかおかしい。あげくのはて、キューバの乳児死亡率は4～5%と非常に良いと言ったりする。日本ではありえない悪い数字である（その場では日本の正確なデータを言えず、黙っていたが）。あとで調べてみると、どうも数字を一桁間違えていたらしい。実際は0.4～0.5%であり、米国の0.6%前後より良好なので頑張っているとは言えるが、韓国やヨーロッパ諸国のほうが上である（ちなみに日本は0.15～0.2%で世界トップクラス）。

基本的に医療サービスは無償で提供されており、経済力のわりには医療体制は高いレベルで整備されていると言えそうである。国策として医師の数は非常に多く、全国で医学生は10万人と聞いた（キューバの人口は日本の1/10）。ただ、肝移植や脾臓十二指腸切除の成績を聞いたが、自慢するほどのレベルではない。現場の医師はともかく保健省の役人は自慢ばかりで、単に上からの通達を深く考えずに唱えているだけ（しかも数字が間違っている）というちょっとお寒い状況であった。“社会主義国家あるある”なのかもしれない。

訪問前にはいろいろ想像していたが、実際に行ってみて、現場でないとわからなかった点もよく見えて、得られたものはとても大きかった。一つ懸念としては、今後米国に入国するのにESTA（電子渡航認証システム）ではダメで、ビザが必要という点で、ちょっと面倒である。

（長谷川 潔）

顧問 森岡恭彦 武藤徹一郎 今村正之 山崎洋次 幕内雅敏

名川弘一 亀岡信悟 國土典宏 幸田圭史 佐野 武

編集 長谷川 潔 船橋公彦 山下裕玄

臨床雑誌 外科 第86巻 第7号（6月号） 2024年6月1日発行（1087号）

編集兼発行者 東京都文京区本郷三丁目42番6号 小 立 健 太

印刷所 東京都千代田区飯田橋二丁目15番5号 日経印刷株式会社

発行所 ☎113-8410 東京都文京区本郷三丁目42-6（営業）TEL 03-3811-7239：振替口座00120-1-149番

株式会社 南江堂 （編集）TEL 03-3811-7619 FAX 03-3811-8660 <https://www.nankodo.co.jp/>

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物の利用に関する原作者の権利は、株式会社南江堂が保有します。

・JCOPY＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上の例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。

広告申込所：☎113-0033 東京都文京区本郷5丁目24番6号本郷大原ビル6階 文京メディカル TEL 03-3817-8036